

県指定文化財

くろざさななごうかま

5 黒笹七号窯



この付近一帯は奈良・平安時代に日本の窯業の中心となった猿投山西南麓古窯跡群の中央に当り、最も優れた須恵器や灰釉陶器を焼いたところです。

窯体は全長9.6m。保存状態の良好な窖窯（あながま）で、焚口から煙出しまで完全に残り、中央部付近の天井も一部を残存し、焚口前面の排水施設も検出されました。出土品には、碗・杯と高杯・盤・平瓶・長頸瓶・鉢・甕・硯などがあり、特に珍しいものでは平瓶の蓋に用いられた鳥紐蓋（とりちゅうぶた）があります。